

WAGRI を通じて、情報通信技術が農業にどう貢献できるかを学生に伝える

基本情報

組織名：東海大学

担当者名：情報通信学部教授

高山 佳久 氏

講義名称：情報通信産業論

(学部3年生選択科目)

実施日時：2024年5月31日

15:20-17:00

実施体制：

主催 東海大学

講師 農研機構 WAGRI 推進室

安藤 隆朗

受講生：

情報通信学部3年生 157名

講義概要：

WAGRI の紹介と活用事例について講演。WAGRI を参考に情報通信技術がどのように農業に活用されているのかを理解する。



■ 講義を企画された背景や受講者への期待

本科目は特に情報通信に関する産業界を理解するために開講している。具体的には、情報通信学科の主専攻科目が、現在社会で利用されている情報システムとどのように関連しているのかについて、産業界の方々による講義を通して学び、どのような仕事に就けるかを理解することが目的である。さらに、卒業後の進路（就職や進学）に関して、また、5年後、10年後の自分自身について目標を立てて積極的に様々なことに挑戦しながら学生生活を送ることが出来るような意識付けを行っている。

受講者へは、情報通信のどのような技術が農業に貢献できるのか、受講生（学生）は2年生までに学んだ情報通信に係る基本的な技術が現実社会でどのように使われているか（貢献しているのか）を理解することを期待した。

■ WAGRI をテーマとした理由

データ分析、ネットワーク、IoTなどの情報通信技術を用いて実現されたシステムであり、また、実社会で情報通信技術が活用されている事例として、情報通信産業論の主旨（シラバス記載の内容）に適した題材であると考えた。

さらには、日頃学生が利用している第三次産業ではなく、社会基盤として生活を支える第一次産業の実例として、情報通信技術が広く活用されていることや情報通信技術への期待、役割につき理解させる題材として適していると考えた。

■ 講義後の WAGRI への関心度について

エンターテインメントやECなどの日頃学生が利用する領域において情報通信技術が利用されていることは理解しているが、農業のような社会基盤においても重要な役割を果たしていることについて事例を聞くことで新たな認識を持った学生が多かった。



■ どのような学びや気づきが学生にあったと感じますか？

講義では WAGRI で用いられている情報通信技術について、東海大学のカリキュラムに記載されている科目名を対応した説明をいただいたことで、学生は学んだ技術が実際どのように利用されているのかを知ることができ、その重要性に改めて気づいたように感じる。

■ 農業データやスマート農業に対する学生の意識に変化はありましたか？

3年次秋から始まる卒業研究において、より専門的な知識を身に着ける必要があることを実感し、より深く情報通信技術を学ぶ必要があるという意識が高まった。

■ 農業やデータ活用に関心を持つ若者に向けてメッセージをお願いいたします。

昨今の米不足の問題、あるいは米国の関税の問題などにより我々の生活に欠かせない米や肉、野菜などの自給自足の必要性が改めて社会問題として扱われています。情報通信技術を通じて、まさに現在進行しているこれら社会問題にどのように貢献するのか、情報通信技術が日本を支える必要不可欠な力になると考えています。これら課題解決に向け、新たな発想でチャレンジすることを期待しています。

お問い合わせ先

WAGRI 運営事務局
(農研機構 農業情報研究センター WAGRI 推進室)
sh-wagri@naro.go.jp

WAGRI 公式サイト
<https://wagri.naro.go.jp/>

